

短期予報解説資料 2025年12月7日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5460m付近のトラフに対応して北日本～北陸地方を通過中の気圧の谷や、500hPa 5580m付近のトラフに対応して日本の東を北東進する低気圧の周辺で、雷を検知、強い雨を解析。
- ② 500hPa 5760m付近の強風軸に対応してフィリピンの東～南鳥島近海にのびる前線上のキンクが小笠原近海を東進。
- ③ ①の気圧の谷や低気圧及び②の前線の周辺では、やや強い風や強い風が吹いて波が高くなっている所がある。

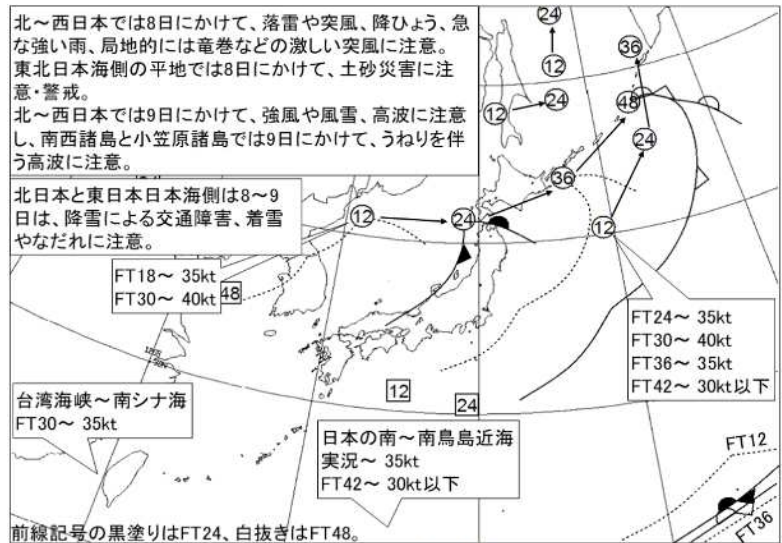
2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 7日は、1項①の気圧の谷が北日本を通過、日本の東の低気圧は北東進、1項②の前線上のキンクは南鳥島近海に進む。西日本太平洋側の高気圧が日本の南に移動し、500hPa 5340m付近で-30℃以下の寒気を伴うトラフに対応して、夜までに日本海に前線を伴う低気圧が発生する。
- ② 8日は、2項①の日本海の低気圧が、発達しながら千島近海に進み、寒冷前線が北～西日本を通過。前線通過後は、この低気圧と大陸の高気圧との間で一時的に西高東低の気圧配置となる。また、日本の南の高気圧は次第に不明瞭になり、フィリピンの東～南鳥島近海の前線はほとんど停滞する。
- ③ 9日は、2項②の低気圧が発達しながらオホーツク海に進み、低気圧からのびる前線は、日本の東から日本のはるか東に進む。大陸の高気圧は移動性となって華北付近からチェジュ島付近に移動し、西高東低の気圧配置は西から緩む。また、フィリピンの東～南鳥島近海の前線はほとんど停滞する。
- ④ 2項①～②の気圧の谷や低気圧及び寒冷前線に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で、北～西日本では8日にかけて、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、降ひょう、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、東北日本海側の平地では、これまでの雨で地盤の緩んでいる所がある。8日にかけて土砂災害に注意・警戒。
- ⑤ 2項①～③の気圧の谷や低気圧、西高東低の気圧配置の影響で、北～西日本では9日にかけて、強い風や非常に強い風が吹いて波が高くなりしける所がある。強風や風雪、高波に注意。フィリピンの東～南鳥島近海にほとんど停滞する前線の北側では、吹送・吹続の長い東よりのやや強い風が吹きうねりを伴い波が高い状態が続く。南西諸島では9日にかけて、小笠原諸島では8日にかけて、高波に注意。
- ⑥ 850hPaで-6℃以下の寒気は、2項②の寒冷前線通過後、8～9日は東日本日本海側まで南下。北日本と東日本日本海側では8～9日は、降雪による交通障害、着雪やなだれに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項〔量的予報等〕** ① 雨量(18時からの24時間):多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(18時からの24時間):北海道20cm。③ 波浪(明日まで):北海道・東北4、北陸・近畿・中国・沖縄3m。④ 高潮(明日まで):大潮の時期。北～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図